

防災・減災部門

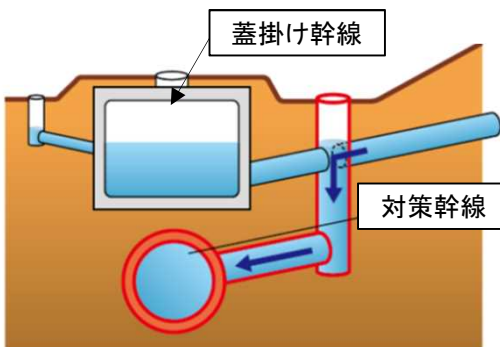
応募事例名

地域への広報活動を実施しながら8年間の期間を要し完成した第二田柄川幹線整備事業(浸水対策)

応募団体名)東京都下水道局

応募事例の概要

- 東京都練馬区田柄、板橋区桜川地区において整備を進めていた「第二田柄川幹線」(内径3.5m、延長4.2km)が、8年の歳月を経て、このたび完成致しました。
- 既設の「田柄川幹線」は道路面から浅く埋設されているため、大雨の際は幹線の水位が上昇し、特に、平成17年9月の大雨では地盤の低い地域など広範にわたって浸水被害が発生している地域です。
- このようなことから、新たな幹線を整備し、既設幹線の水位を下げることで、計画降雨に対して浸水被害を軽減するため第二田柄川幹線を整備しました。



下水道幹線の整備による浸水対策のイメージ(浅く埋設された幹線)



施工中の第二田柄川幹線シールド坑内



東京下水道VR

<https://www.youtube.com/watch?v=D5LL36NwC8A>

- 本事業は、平成26年度より約8年の期間を要しました。この間、地域の方々や地元区、公園管理者など多くの方々のご理解とご協力により事業を完了させることができました。
- 地域の方々のご理解をいただくため、毎年6月の「浸水対策強化月間」など現場見学会を開催し、トンネル構内を見学頂く機会を設けておりました。しかし、コロナ渦となり見学会の開催が困難な状況となりました。
- そこで、下水道局では、普段は見ることのできない下水道の工事現場や施設内部を、VR映像で閲覧できる「東京下水道VR」を開設し、第二田柄川幹線の工事現場についてもパソコンやスマホから説明とともにご覧頂けるように致しました。



第二基幹施設再構築事務所
工事第二課長
松澤 秀典

- 掘進ルートの中に存在する地中支障物を非開削で直接撤去しながら施工する必要があるなど、極めて難易度の高い工事でした。また、完成までに長期間を要することから、地域の方々にご理解とご協力を得るため、工事受注者の協力や局内関係部所との連携のもと、積極的に広報活動も行ってきました。
- コロナ渦以前は、毎年6月の「浸水対策強化月間」に地域の方々や近隣の小学校を対象に現場見学会を開催していました。また、浸水被害のあるハノイやバンコクといった海外や大学からの見学者も受入れ、日本の技術力や、魅力的な事業活動である事もアピールしました。工事の進捗にあわせて、テレビ局の取材を受け、放映もされた事もありました。
- 8年間の集大成として、工事完了のパンフレットを作成しました。これまで本事業に携わってきた多くの下水道局職員を代表して地域の方々へ感謝の意を示すことができ感無量です。